

平成 27 年度

社会福祉法人こころの種福祉会つくばトッポンチーノ保育園

事業報告書

理事長 三上恵子

## 1. 平成 27 年度の概要

当園の〈保育の基本理念〉遂行のため、どのように「子ども一人ひとりを自立に導く温かな眼差しに満ち溢れたやすらぎの環境の中で導き合って伸びていく」という子どもの見方・支え方を通した保育が実践されたか〈保育の基本方針〉に添って順を追ってご報告を致します。

①保育事業計画にある内容はほとんどが予定通りに遂行できたことをご報告します。さらに、季節に応じた保育の発展活動として、子ども達に日本財団からの助成金を受けて幼児用バスを購入し、園外活動を実行できたことなど、喜びにつながる活動が展開できたことをご報告します。

②家庭や地域との連携を大切にして「家庭教育」の補完をする。  
乳幼児の保育に関する相談に応じ、社会的役割を果たす。

- ・月に1回の予定で「家庭教育研究会 Montessoriseed」を開催し、多くの在園家庭に参加して頂きました。「今、目の前の子ども」に何が真の支えとなるかを考え、具体的な「モンテッソーリ的環境改善」の方法を伝えてきました。実際に玄関の靴の置き場所から、家具の配置などを子どもの目線でとらえやすい環境に工夫し、親子の楽しいやりとりにもつながりました。子育ての中で、子どもの自発力や知性を育む楽しさを実感した家庭が増えました。

- ・日々の保育の内容を養護面に限ることなく、その日のモンテッソーリ教育内容のご理解と興味につながるようなコメントやお知らせを3歳以上児全員の連絡帳に毎日添付しました。

③子ども達は整えられたモンテッソーリ教育の環境の中、自分の意思で自由に興味ある活動を選び、集中力をもって取り組みながら自分の意思通りに動く身体を育てていく。

- ・保育士・職員は子どもの発達チャンス「敏感期」を逃さずに、知性と共に豊かな

人格形成の下地となるような「応答的環境」「自発的に動きやすい環境」を整えるために研修を重ねるなど精進した。

- ④異年齢縦割りで学び合う経験を多くし、人間関係の基本である思いやりを身につけ、責任感を育んでいく。コミュニケーションを楽しむことで問題解決能力を高め、児童は幸福感に満たされるうちに「自分で考えて判断し行動できる」高い人間的資質を獲得していく。

・日中の活動の大半で縦割り活動の実践をしました。各年齢の保育士同士の連携を良くし、子どもの発達を個別に十分理解することで、ダイナミックでフレキシブルな縦割りの展開が可能となったのです。保育者は、きめ細かに物的環境を整えることを配慮し、子どもの敏感期を逃さずに安全に子ども同士が関わることができました。その結果、それぞれの動きの調整、発達、人格の獲得に大きく貢献できたことをうれしく思います。さらなる工夫を重ね、子ども達の人間的な成長を支えたいところです。

- ⑤児童の好奇心を尊重し、興味を惹きつけながら自主性を育んでいく。職員は連携し、モンテッソーリ教育の環境づくりを励行する。子どもの自立を促す自由かつ知的な環境を整え、子どもが自発的活動を行うための援助をする。

・多くの公的業務が山積する中で物的環境を日々整えることは並々ならぬ仕事ですが、過不足なく環境を整えることで、子どもを自由に活動させることができるので、寸暇を惜しんで徹底清掃すると共に、物的環境を整えることに尽力しました。当園の保育の方針として子どもとの関わりを十分にとり、そして、「子どもの発達」にとってベストな環境づくりにこだわり、その力量を磨いていきたいところです。

- ⑥「食べること」は「生きること」。命をより良く生きるための姿勢を「食育」を通して身につけて行く。

・「食育」では月ごとにきめ細かい課題を設け、子ども達の支えとなるよう研究と実践を重ねました。旬の食材の紹介はもちろん、身体を育むために必要な栄養素など、さまざまなアプローチをして子どもの好奇心と学びを支えました。

## 2. 当園の支援・研修

### ①在園家庭への支援

就学に向ける細部に至る発達課題のほか子ども達一人ひとりが前向きに人生を歩む

自立に向けての成長を支えるためには家庭の支えは欠かせないものです。就労で多忙な毎日の中、幼児期のわが子とどのように接したらよいか、具体的にどうしたら日々成長するわが子の養護ができるのか。すべてが子育ての不安要因にならないよう、少しでも「子育て」が励みとなる支援ができればと、さまざまな工夫をした初年度であった。

現代の保護者の世代・年齢を考えると、言葉だけではなく、ビジュアルをもって確認し、納得していく世代であることを念頭に置き、就労中に子ども達がどのような生活をし、どのような頑張りをしているかを伝える創意工夫を重ねた。

生活の細部にわたる情報を毎日 HP 上の保護者専用ページにて活動写真を通じ、臨場感をもって伝えてきたことから、心情・意欲・態度がバランスよく発達していることを喜ぶ保護者・在家庭の姿が日を追うごとに見受けられるようになった。さらに個別の面談など適時希望者に行ったり、問題がある子どもの場合はこちらから保護者をお呼びしたりと「面談」の機会を多くとるようにした。今では「感染症対策」「安全対策」などの点で必要物の準備や駐車場ほか園舎周辺の行動などの見直し等、保護者のご協力を仰ぐことができるようになっている。

保護者と共に子どもの発達を理解し、等身大で支えられるように連携を良くし、職員同士も子ども一人一人を正しい共通認識のもとに支えられるような関係づくりがかけがえのない保育現場の支えの要素となっている。

## ②職員の研修

長期的な法人運営に向けて有能な職員の育成が課題である。社会福祉法人職員としての自覚と行動、さらにつくばトッポンチーノ保育園職員としての保育の技術及び知識の強化・向上などを目指した研修設定をした。しかしながら多忙な職務の中で、現場で伝え合うことはもちろん、専門性を高める学びを続けるために時間を割くことは大変困難ではある。そこで職員の小グループを構成し、幾たびも場を設け、職員全員が同じレベル・質の学びが果たせるように工夫した。その結果、衛生観念などの養護に必要な学びも含め、モンテッソーリ教育などの教育面に関しても自園教育ができたことは大変有意義であった。さらに次年度は、研修内容の充実、研修時間の確保などの目標を日頃の保育業務を遂行しながらしっかりと果たしていきたい。